

3 癌補助療法としての機能性（紫イペ、AHCC）の効果について—特に乳癌、胃癌、大腸癌—

○川口雄才、松井陽一、上山泰男¹⁾、坂口煦彌²⁾、小砂憲一³⁾

(¹⁾ 関西医大第一外科、²⁾ 紫イペ株式会社

³⁾ アミノアップ化学株式会社)

現在、癌の治療法として手術、化学療法、放射線療法、温熱療法、免疫療法などがあるが、今だ有効な治療法がほとんどないのが現状である。当科での癌治療方針は手術では手術不能症例に対してもmass reductionを目的に手術を施行し、化学療法では、副作用を抑えながら、抗腫瘍効果を得る方法として、low dose F-P療法（5-FU: 250 mg/day×4 weeks、CDDP: < 5 mg/day×5 days >×4 weeks）、low dose CPT-11療法（CPT-11: < 8 mg/day×5 days >×4 weeks）を施行している。また免疫療法として機能性食品（紫イペ: 900 mg/day、AHCC: 3～6 g/day）を投与している。この他、PNI（精神神経免疫学）の理論に基づいて癌カウンセリングも行っている。

今回、1995年4月から2000年3月までに経験した乳癌症例56例、胃癌症例94例、大腸癌症例82例を対象にstage別に生存率を検討した。乳癌（stage I～III a）、胃癌（stage I A～III A）、大腸癌（stage 0～III a）において根治手術が行われた症例では2000年3月現在、観察中央値が23ヶ月であるが100%の生存率を得ている。また、乳癌、胃癌、大腸癌症例のstage III b、IVに関しては、良好な結果が得られなかったものの、QOLの向上と生存率の延長が認められた。更に、再発、転移症例においてもQOLの向上と長期生存例が得られた。

故に、機能性食品である紫イペ、AHCCは癌予防及び早期、中期癌の再発、転移予防に有用であることが示唆され、また末期癌及び再発、転移癌に対してもQOLの向上と延命効果が期待される可能性が示唆された。また、癌治療は西洋医学だけではなく代替医療をも含めた統合医療が望まれるべきであると考えられた。